

# 九州大学病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【九州大学病院の基本情報】

医療機関名：九州大学病院

開設主体：国立大学法人九州大学

所在地：福岡市東区馬出 3－1－1

許可病床数：

（病床の種別）一般 1,182床 精神 93床 計 1,275床

（病床機能別）高度急性期 1,182床

稼働病床数：

（病床の種別）一般 1,182床 精神 70床 計 1,252床

（病床機能別）高度急性期 1,182床

診療科目：

内科、心療内科、精神科、神経内科、呼吸器科、循環器内科、小児科、外科、  
整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、  
泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、  
放射線科、病理診断科、麻酔科、救急科、歯科

職員数：3,013人（H29.7.1）

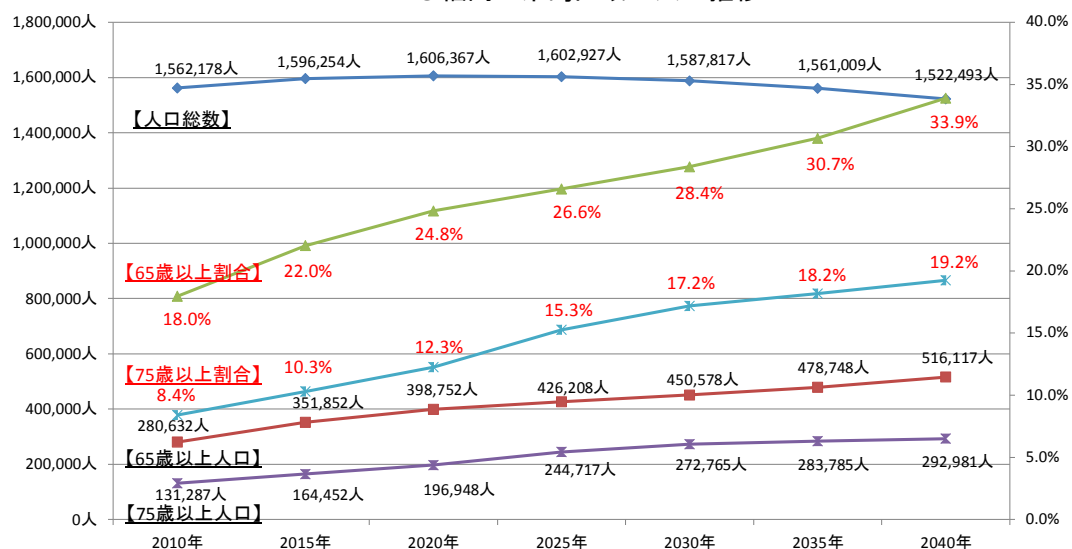
- ・ 医師 944人
- ・ 看護職員 1,319人
- ・ 専門職 364人
- ・ 事務職員 386人

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

○総人口のピークは平成32(2020)年ごろ、一方で65歳以上人口は増加を続けるため、今後速いスピードで高齢化が進展する。

●福岡・糸島区域の人口推移



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月中位推計)」

○人口10万人対の一般・療養病床の数、及び医師の数は全国平均を上回り、医療資源は豊富である。※福岡県地域医療構想資料編より

許可病床数の状況

(単位：床)

	許可病床数			人口10万人対許可病床数		
		一般病床	療養病床		一般病床	療養病床
全 国	1,334,724	995,170	339,554	1,050.3	783.1	267.2
福岡県	72,669	50,305	22,364	1,419.7	982.8	436.9
01福岡・糸島	20,328	14,942	5,386	1,283.5	943.4	340.1

※平成26年10月1日現在(医療施設調査)

※人口の10万人対の数値は平成26年9月末時点の住民基本台帳月報を基に算出

医師数の状況

(単位：人)

	医師 総数	人口10万人対医師数					
		総 数	小児科	産科・ 産婦人科	外 科	麻酔科	救 急
全 国	296,845	231.5	101.6	41.4	21.9	6.4	2.1
福岡県	14,912	291.2	113.2	43.5	29.6	8.0	2.7
01福岡・糸島	5,670	357.4	127.4	47.8	36.9	11.6	4.6

※平成26年12月31日現在(厚生労働省：医師・歯科医師・薬剤師調査)医療施設従事医師数

※人口10万人対の数値は平成27年1月1日現在住民基本台帳人口を基に算出

※小児科は15歳未満人口を、産科・産婦人科は15～49歳女性人口を基に算出

○入院医療の提供状況 ※福岡県地域医療構想資料編より

平成25年度の国民健康保険及び後期高齢者医療のレセプトデータを用いて、診療報酬の入院基本料別に自己完結率（当該区域に住民地を有する患者が当該区域の医療機関を受診する割合）を分析すると、一般病床のうち、主に高度急性期・急性期に対応する看護配置基準7対1及び10対1の病床では93.9%が自己完結しており、粕屋区域の患者の39.7%、宗像区域の患者の12.8%、筑紫区域の患者の30.4%が福岡・糸島区域に流入しています。

○自己完結率は救急で93.2%、くも膜下出血で89.9%、急性心筋梗塞で91.7%、悪性腫瘍で94.2%、小児の入院体制で94.4%と非常に高く、医療提供体制は全般的に充実した状況である。

●福岡・糸島二次医療圏における主要な事業、疾病別の自己完結率

○救急医療（二次救急）入院

合計／総件数	医療機関二次医療圏名			
負担者二次医療圏名	福岡・糸島	他福岡県内二次医療圏	他県（山口、佐賀、長崎、大分）	総数
福岡・糸島	15,755	998	148	16,901
	93.22%	5.90%	0.88%	100.00%

○脳血管疾患（くも膜下出血（主病名））入院

合計／総件数	医療機関二次医療圏名			
負担者二次医療圏名	福岡・糸島	他福岡県内二次医療圏	他県（山口、佐賀、長崎、大分）	総数
福岡・糸島	965	108	0	1,073
	89.93%	10.07%	0.00%	

○虚血性心疾患（急性心筋梗塞（主病名））入院

合計／総件数	医療機関二次医療圏名			
負担者二次医療圏名	福岡・糸島	他福岡県内二次医療圏	他県（山口、佐賀、長崎、大分）	総数
福岡・糸島	897	81	0	978
	91.72%	8.28%	0.00%	

○悪性腫瘍（悪性腫瘍（主病名））入院

合計／総件数	医療機関二次医療圏名			
負担者二次医療圏名	福岡・糸島	他福岡県内二次医療圏	他県（山口、佐賀、長崎、大分）	総数
福岡・糸島	26,878	1,470	188	28,536
	94.19%	5.15%	0.66%	

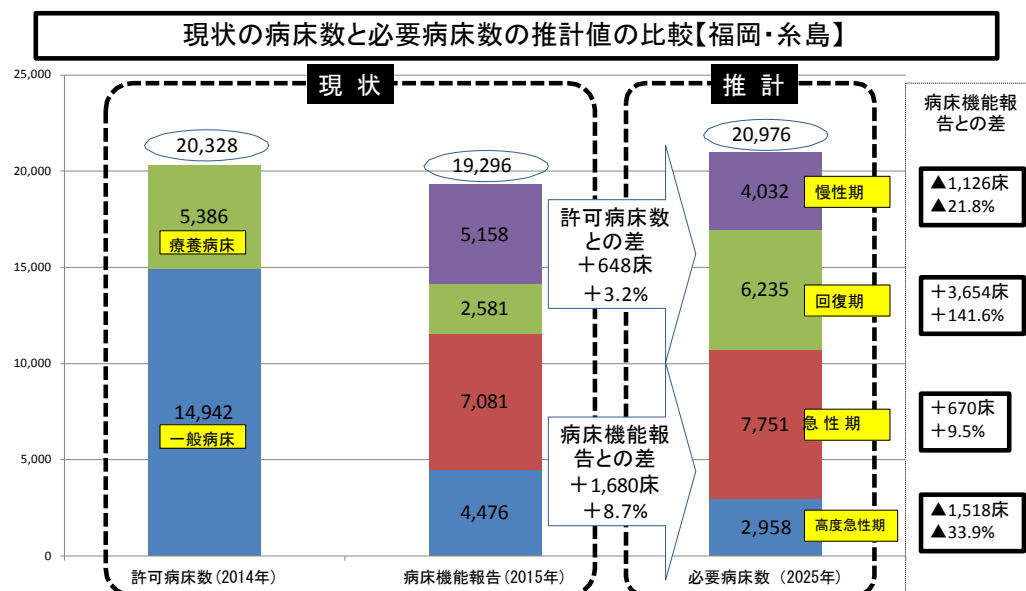
○小児・周産期医療（小児の入院医療体制）入院

合計／総件数	医療機関二次医療圏名			
負担者二次医療圏名	福岡・糸島	他福岡県内二次医療圏	他県（山口、佐賀、長崎、大分）	総数
福岡・糸島	1,657	99	0	1,756
	94.36%	5.64%	0.00%	

出典：医療計画作成支援データブック（厚生労働省・2015）

② 構想区域の課題 ※福岡県地域医療構想資料編より

○必要病床数の推計値と現状の病床数との比較では回復期が3,654床不足する見込である。



一方、高度急性期病床が1,518床過剰となる見込であるが、高度急性期を担う医療機関において二次医療圏外からも広く患者を受け入れている現状を考慮すると、二次医療圏の高度急性期病床を減床する事の妥当性の再検討も必要である。

○高度医療機関が集積し、高度急性期、急性期について広域的に医療提供を支える役割を果たしつつ、高齢化の進展に伴い増加する慢性期・在宅医療等の医療需要に適切に対応することが必要である。

### ③ 自施設の現状

当院では、患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指して様々な疾患に対して現状における最高で良質な医療を提供することで、患者さんが回復できるよう努めている。またそのために多職種のスタッフと協力してサポート体制を整えている。

大学病院として高度で専門的な医療を提供するという点では、がんをはじめとする難治性疾患の治療や救急医療、移植手術などの先端医療に力を注ぎ、特に「都道府県がん診療連携拠点病院」、「小児がん拠点病院」として、地域におけるがん診療の中核的役割を担っている。

また小児慢性疾患の患者さんが成人診療科へ移行するための「トランジショナルケア外来」や、術前～術後の期間に手術を受ける患者さんが安全に乗り切れるよう、「周術期支援センター」「周術期口腔ケアセンター」を設置している。患者さんの満足を第一に考えて診療体制を充実させる一方、遺伝子治療や再生医療などにも積極的に取り組み、高度な病院機能の質を高めるよう努力している。

当院は西日本地域における拠点の1つとして、これまでに培われてきた病院の基礎、基盤により広く貢献できる医療機関である。

#### ○九州大学病院の理念、基本方針

理念：患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

- 基本方針：
- 1 地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
  - 2 プライマリ・ケア診療の充実
  - 3 全人的医療が可能な医療人の養成
  - 4 専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
  - 5 国際化の推進

#### ○拠点病院の指定等

- ・ 特定機能病院（H7.4.1） ※県内4大学病院のみ
- ・ 臨床研究中核病院（H28.1.27） ※広島県以西の西日本で唯一
- ・ 救命救急センター（H18.8.1） ※福岡・糸島圏内5病院のみ
- ・ 小児救命救急センター（H25.5.1） ※県内唯一、全国13病院のみ
- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院（H20.2.8） ※県内2病院のみ
- ・ 小児がん拠点病院（H25.2.8） ※九州で唯一、全国15病院のみ
- ・ 総合周産期母子医療センター（H20.3.18） ※福岡・糸島圏内5病院のみ

#### ○九州大学病院の診療実績【1,252床計算（精神科23床休床）】

##### <平成28年度>

届出入院基本料	一般7：1 精神13：1		
平均在院日数	16.5日（全体）	16.0日（7：1）	67.5日（精神）
病床稼働率	89.8%（全体）	90.9%（7：1）	70.6%（精神）
手術室手術件数	9,980件		

##### <平成29年4月～7月>

届出入院基本料	一般7：1 精神15：1		
平均在院日数	16.2日（全体）	15.6日（7：1）	73.5日（精神）
病床稼働率	91.8%（全体）	92.9%（7：1）	73.9%（精神）
手術室手術件数	3,442件		

##### <平成29年7月>

届出入院基本料	一般7：1 精神15：1		
平均在院日数	16.5日（全体）	15.8日（7：1）	96.1日（精神）
病床稼働率	93.5%（全体）	94.4%（7：1）	77.6%（精神）
手術室手術件数	836件		

○九州大学病院の特徴

＜平成28年度医療圏ごとの退院患者割合＞ ※表 1

- ・福岡・糸島医療圏：46%
- ・粕屋、筑紫、宗像医療圏の合計：28%      これまでの合計 74%
  - 福岡県地域医療構想（福岡県保健医療計画別冊）39 頁（3）入院医療の提供状況と合致しており、隣接している医療圏の不足分をカバーしている。
- ・県外：14%
- ・県内その他の医療圏（北九州、筑豊、筑後）の合計：12%
  - 26%が広域からの患者であり、周辺の医療圏ではカバー出来ない重症症例や希少疾患等の患者を診療していると考えられる。

＜平成 28 年度退院患者の年齢構成＞ ※表 2

- ・61 歳以上：48.4%（71 歳以上：24.6%）
- ・小児 20 歳以下：14.4%

表 1

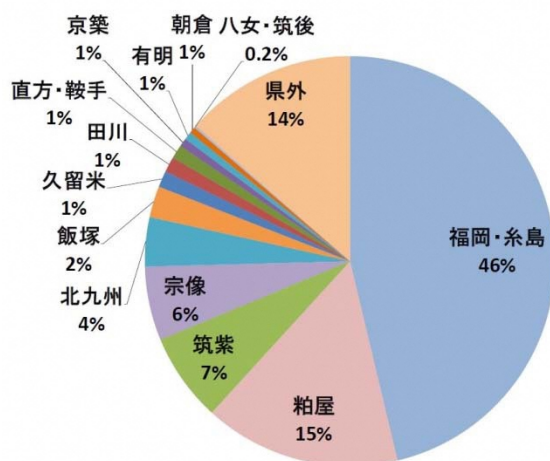
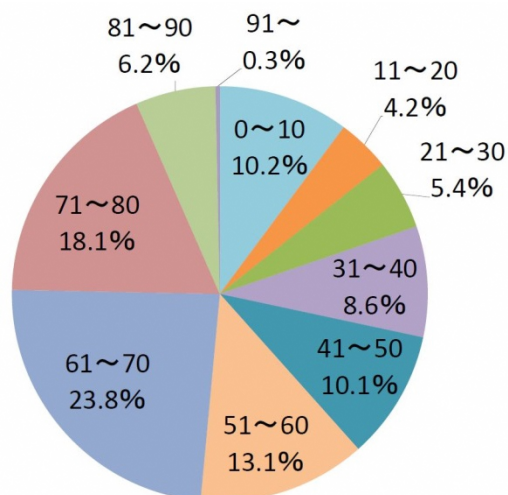
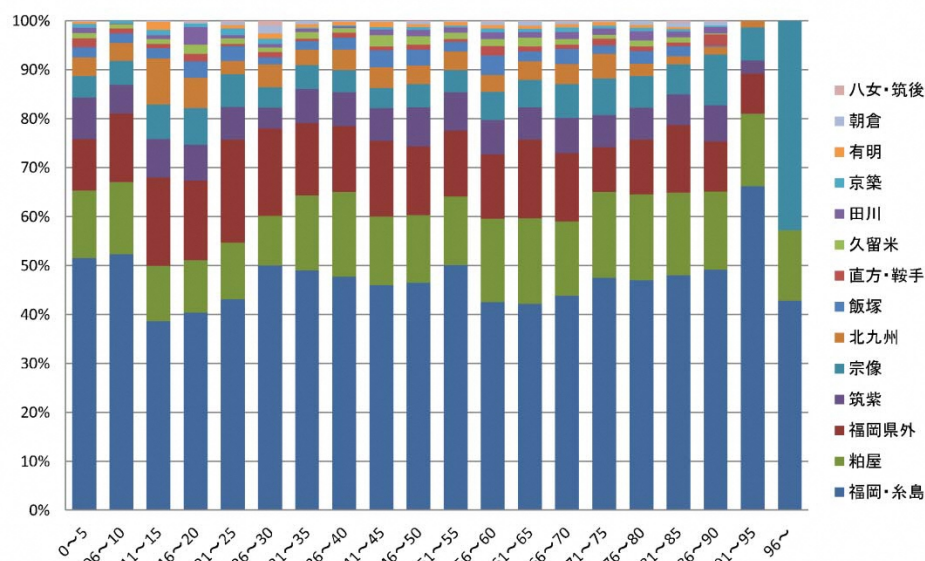


表 2



＜平成28年度医療圏ごとの退院患者割合（年齢構成）＞ ※表 3

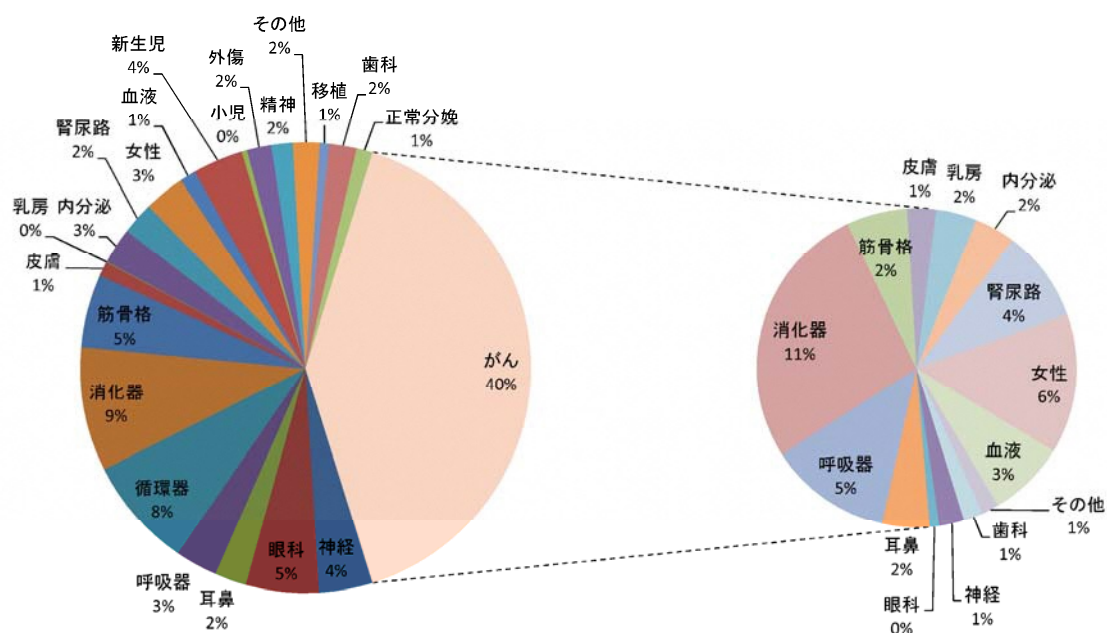
表 3



<平成28年度疾患別退院患者割合> ※表 4

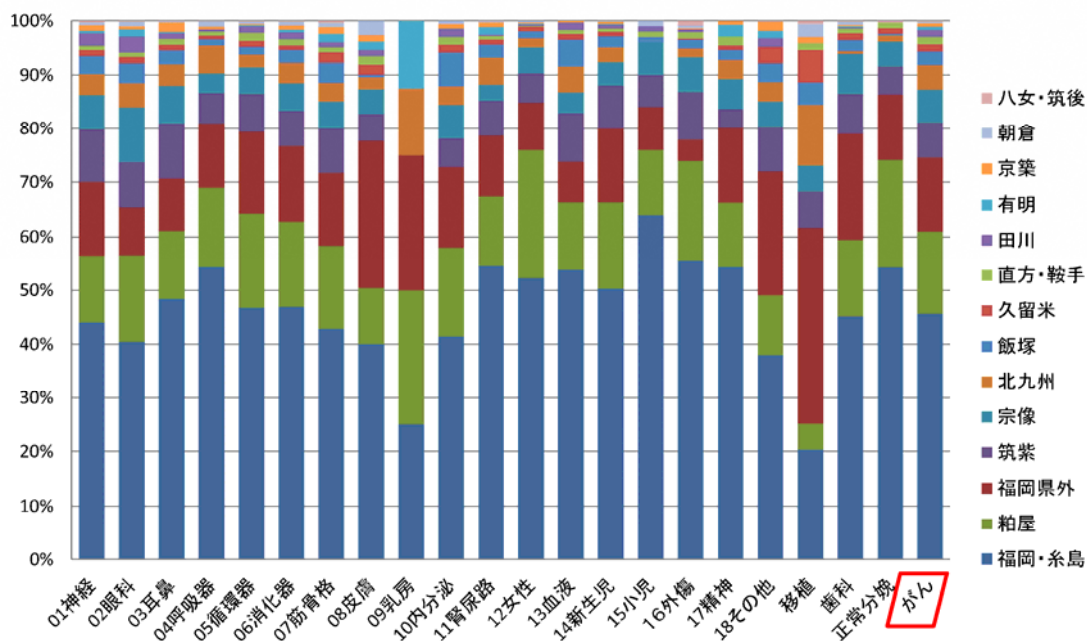
- ・がん : 40%
- ・消化器 : 9% (大腸ポリープ、クローン病、肝硬変、炎症性疾患、慢性膵炎)
- ・循環器 : 8% (心筋梗塞、心不全)
- ・神経 : 4% (脳卒中)、内分泌 : 3% (糖尿病)、精神 : 2%

表 4



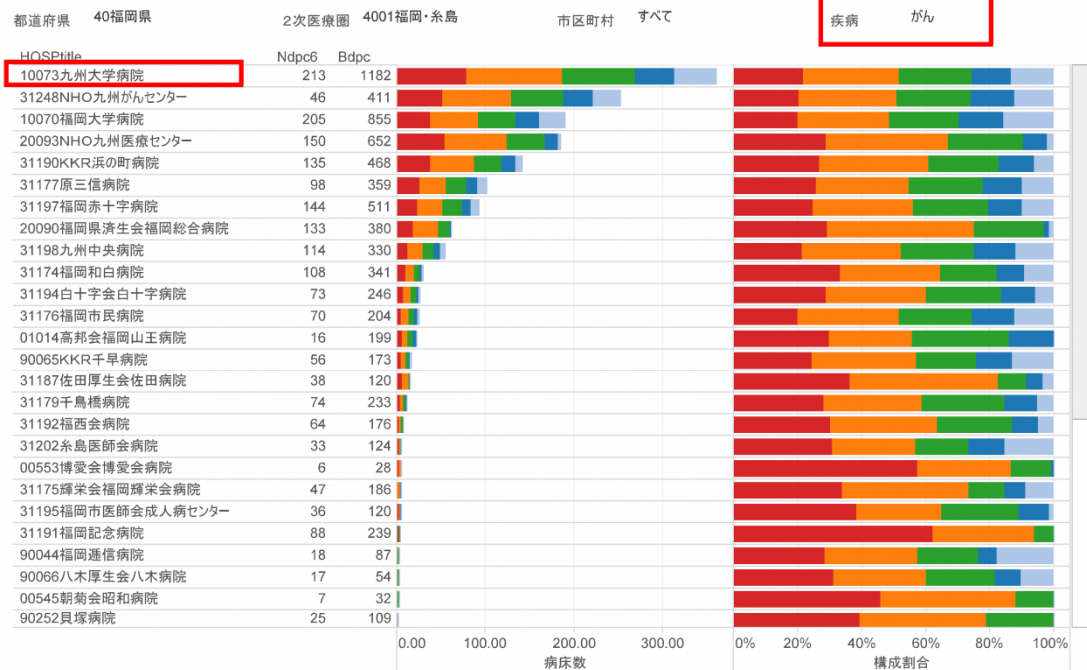
<平成28年度医療圏ごとの疾患別退院患者割合> ※表 5

表 5



＜がん：診療密度区分別の病床数等の推計結果＞ ※表 6  
表 6

診療密度区分別の病床数等の推計結果：地域別：施設一覧



- 九州大学病院は患者の年齢層、疾病の重症度を問わず、福岡糸島二次医療圏だけでなく、福岡県、九州全域、並びに全国からの患者を受け入れている。
- 九州大学病院は高度急性期を担う特定機能病院であるとともに、福岡糸島医療圏二次医療圏で最も多くのがん患者（二次医療圏がん患者総数の34%）の診療を行うがん診療拠点病院、九州沖縄地区で唯一の小児がん診療拠点病院、広島県以西の西日本で唯一の医療法上の臨床研究中核病院など専門分野においても高度な医療技術を提供できる医療機関である。
  - 救急医療分野では、福岡市東部（博多区、東区）、更には隣接する粕屋並びに宗像二次医療圏を含めた地域において唯一の救命救急センターを備えており、循環器疾患の診療、高齢者の骨折治療ならびに救急医療では地域の中核的な医療機関、かつ、他の病院が受け入れ困難な患者に対して最後の砦となっている。更に、広域災害にも対応可能なヘリポートを有する災害拠点病院として九州広域の高度急性期医療を担っている。
  - 周産期分野において、総合周産期母子医療センターに、福岡県からの委託事業として母体搬送コーディネーターを配置し、円滑な連携体制を確保しつつ、福岡糸島二次医療圏のみならず、福岡県・北部九州より最重症の母体と新生児を受け入れる最後の砦となっている。
  - 小児医療分野では、福岡糸島二次医療圏、粕屋、筑紫、宗像二次医療圏の患者を日常的にカバーし、高度な医療を要する小児がん、移植医療及び新生児外科疾患群については、北九州一円の患児を受け入れている。

#### ④ 自施設の課題

- 先端医療等を含めた高度な医療の提供が可能な施設として、福岡県に限らず広域に渡って、他医療機関での治療困難な重症患者の治療を数多く行っている。外来・入院患者数は年々増加しており、今後も当院の治療を必要とする患者は更に増大すると予想される。そのため、現有の病床を有効に活用し、診療密度を維持しながら平均在院日数短縮等による入院待ち患者減少に向けた対応が必要である。
- ・ 福岡糸島二次医療圏を中心として多くの患者が来院しているため、患者の入院待ちの状況が常態化（平成 26 年度以降、月平均 1,400 名程度）している。特に、がん患者、循環器疾患患者等においては、常に 500 名程度の患者が入院待ちの状況にあり、迅速な入院受け入れが大きな課題である。
- ・ 福岡糸島医療圏において、今後も 65 歳以上の高齢者の割合が増加し、2025 年には、65 歳以上の割合は 26.6%にも上がることが推計されている。このような高齢者の増加に伴い、他医療機関での治療困難な合併疾患を伴っている高齢者のがん患者、脳卒中患者及び心疾患患者の増加が予想されるため、これまで以上に総合的ながん治療対策、脳卒中対策及び心疾患対策が必要となる。福岡県内で多岐に亘る政策医療を担っている本院が、今後も引き続き県の保健医療の発展に寄与するためには、継続的・安定的な財政支援の在り方についても検討していただきたい。
- ・ 平成 29 年 7 月現在の平均在院日数は 15.8 日であるが、今後、入院待ち患者数の増加が予想されることを鑑み、更に短縮していく必要がある。高度急性期病院として、他施設で治療困難な重症患者を治療し、早期にリハビリを介入させ、後方病院へ転院した患者が在宅復帰しやすいようにする。つまり、患者の総入院期間（高度急性期病院→後方病院→自宅退院）を短縮させ、患者一人あたりに係る医療費の削減を目的とした、後方病院との連携強化について、今まで以上に推進する必要がある。
- ・ 高度急性期から回復期、慢性期、在宅へのシームレスな支援体制の構築が課題であり、情報共有のみならず、継続した看護ケアの提供を行うためには、地域医療を支える看護職員の教育や人材育成、医療機関相互の医療提供体制の連携を更に強化する必要がある。

#### 【2. 今後の方針】

##### ① 地域において今後担うべき役割

- 現状で示した機能に加え、高度な医療提供を維持するため、先端医療の確保や医療技術の開発を行うとともに、医療の質向上を目標とした、後方支援病院を含めた医療人を育成する体制の充実を図る必要がある。また、患者の回復に必要なリハビリ支援、適切な退院支援や後方受入施設との地域連携を推進することが重要と考える。地域連携の活性化、円滑化に当たっては、ネットワークを利用した医療情報の共有化の拠点となるべき役割を担うことも視野に入れる必要があると考える。
- ・ がん患者数の増加に見合う病床数の大幅な増加が困難な状況を鑑みると、福岡糸島二次医療圏内の医療機関とそれぞれの機能を明確にした上での連携強化が重要である。特定機能病院である当院は、重症で高度な医療を必要とする患者を受け入れることを使命としており、がんの進行度や特殊治療の必要性の有無により施設間で役割分担していくことで、入院待ち患者の減少も期待できる。

- ・ 在宅医療が必要な医療的ケア児は年々増加している。周産期関連施設を退院した障害児等が生活の場で療養・療育できるよう支援する体制として、人工呼吸管理や気管切開等を有する小児の入院診療や、小児救命救急センターと連携した小児の急変時の対応を行うことが小児在宅医療の拠点である当院の役割である。
- ・ 県内及び福岡系島二次医療圏の医療体制の均てん化、及び患者一人あたりの入院日数の短縮、再入院率の低下、在宅復帰率の向上のために、後方支援病院の医師・看護師を始めとした医療従事者に対する教育は、教育機関である当院が担うべき役割である。

## ② 今後持つべき病床機能

高度急性期病床の運営を維持する。

## ③ その他見直すべき点

特記事項なし

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

## ① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	1, 182床	→	1, 182床
急性期			
回復期			
慢性期			
(合計)			

## ② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

### ③ その他の数値目標について

#### 医療提供に関する項目

(平成29年度目標)

- ・ 病床稼働率： 医科92% 歯科95%
- ・ 手術室稼働率：(年間目標件数) 医科9,350件 歯科800件
- ・ 紹介率： 医科88% 歯科47%
- ・ 逆紹介率： 医科80% 歯科20%

(参考H26-H28)

- ・ 病床稼働率： 医科89.8% 歯科94.2% 合計89.9%
- ・ 手術室稼働率：(年間件数) 医科8,892件 歯科723件 合計9,615件
- ・ 紹介率： 医科91.2% 歯科51.4% 合計79.0%
- ・ 逆紹介率： 医科82.3% 歯科22.5% 合計64.1%

(参考H24-H28)

- ・ 病床稼働率： 医科89.1% 歯科93.5% 合計89.3%
- ・ 手術室稼働率：(年間件数) 医科8,757件 歯科716件 合計9,473件
- ・ 紹介率： 医科89.1% 歯科56.2% 合計79.6%
- ・ 逆紹介率： 医科76.4% 歯科25.2% 合計61.7%

#### 【4. その他】

(自由記載)

- 「九州大学病院連携医療機関登録制度」により、地域におけるさまざまな医療機関とのこれまでの連携実績を活かし、患者さんへの前方支援、後方支援をより充実させ、切れ目の無い安心な医療を提供する。